

Vol.13

2025.11.4 発行

ハンダタイムズ



専務取締役

N . I

専務取締役として吉岡社長を支える N. I。感性の社長と分析の専務、異なるタイプの二人は、若き日の約束を胸に数々の困難を乗り越えてきた。その根底には「『できない』とは言わない」という不屈の精神と、いかなるときも信頼を寄せてくれた仲間の存在があった。N. I の歩んできた軌跡は、挑戦の歴史そのものである。

就職氷河期が生んだ、温かな出会い

N. I が就職活動を行ったのは、まさに就職氷河期の最中だった。多くの企業が門戸を閉ざす中、ハンダ技研工業は工場見学を企画し、何度も手書きの手紙で N. I を会社へ誘ったという。

「人のことを大切にすることなんだと実感しました。実は、達筆すぎて手紙が読めず父に読んでもらったのですが」。

N. I は笑いながら当時を振り返る。その父からの「こんなに必要とってくれる会社なら行ってみたいかどうか」という一言も、N. I の心を後押しした。こうして、人の温かさに導かれるように、ハンダ技研工業への入社を決意する。

「戦友」と交わした約束

同期には、現社長である吉岡の姿があった。入社数か月後、N. I はトイレの鏡の前で「溶接がうまくいかない」と真剣に悩む吉岡を見かける。まだ仕事に慣れるだけで精いっぱいだった自身とは対照的に、吉岡はすでに自身の仕事にプライドを持ち、高みを目指していた。

「すごい人だな、と感じました」。

そのストイックさに感服する一方、吉岡のナイーブな一面も感じ取り、仕事終わりに寮へ通い、共に時間を過ごしたという。感性の吉岡と、分析の N. I。タイプは違えど、目指すベクトルは同じ「戦友」だ。

「どちらかが会社を牽引する立場になったら、もう片方が全力で支えよう」。

若き日に交わしたこの約束が、二人の関係性の礎となっている。

『『できない』は禁句』 会長の教えを胸に挑んだ無理難題

N. I のキャリアを語る上で欠かせないのが、通常6か月の納期を3か月で達成するという、無謀とも

思えるプロジェクトだ。

「絶対に無理だと思いました。しかし、うちの会社がやらなければ、どこにもできないだろう、とも感じました」。

N. I の脳裏に浮かんだのは、会長から常々言われていた『『できない』は禁句。どうやったらできるか考えなさい』という言葉だった。「お客様が喜んでくれるなら」と、腹を括る。すぐに部門のメンバーを集めると、皆が「やります」と即答。日頃から常に一歩先を読み、行動する N. I への信頼が、チームを一つにした瞬間だった。会長からは「本当にできるのか」と確認されたが、その挑戦的な判断こそ、会長の教えを体現したものである。

信頼がチームを動かす、 次世代へ繋ぐ想い

この困難なプロジェクトを成功に導いたのは、社内での設計や技術者、さらには他の工場から応援に駆けつけてくれた仲間たちの協力があったからに他ならない。

「一人では何もできない。仲間がいてくれるからこそ、大きな仕事が成し遂げられる」。

この経験は、N. I の信念をより強固なものにした。「会長が挑戦の機会を与えてくれたように、今度は自身が次の世代を育成する番だ」と N. I は語る。

「失敗を恐れず、経験することにどんどん飛び込んでほしい。チャンスは皆に平等にあります」。

その言葉は、数々の挑戦を乗り越えてきた N. I だからこそその、重みと説得力を持つ。

感性の社長を、分析力で支える専務。二つの異なる力が融合するとき、会社はさらなる推進力を得る。会長から受け継いだ挑戦の精神と、仲間との揺るぎない信頼を胸に、N. I はこれからもハンダ技研工業の未来を力強く牽引していこう。



専務って どんな人？



代表取締役社長

よしおか ひろひろ
吉岡 亨浩社長

Q1. N. I 専務は私にとって……

「良きライバルであり、最高のパートナー」

同期で入社し、私たちは名阪工場に配属されました。彼は大卒で入社し、高卒の私からは人生の先輩であり学歴も上の存在で、早く追い付き追い越したいというライバル心を燃やしていました。仕事では部署が違いましたが、お互いの悩み事を相談し合い、日々解決していました。仕事の後は、私が住んでいた寮に来ては、テレビゲームやバス釣り、カラオケに出かけるなどして、一緒に過ごしていました。

Q2. ここがすごい！

「正反対だからこそ生まれる、最強のバランス感覚」

彼はどちらかというと理論派で、感覚派の私とは正反対です。登山でいうと、彼は左ルート、私は右ルートというイメージ。目的に向かって登り方は違いますが、仕事が進むにつれ、私の感覚が合っているのかを理論的な観点で確認してもらうなど、彼もその逆で確認し合います。他の役員の皆さんも私と違った考えを持っており、会議でもいろいろな意見が出るのが弊社の強みであり、何より役員の中でも最年少の私を役員の方々が支えてくれていることに感謝しています。

Q3. Message

「どちらかが社長になったら全力で支えよう」と約束した通り、支えてくれてありがとうございます。私たちは経営者でいうとまだ子どもです。これからもたくさんの困難がやってきて心が折れそうになることもあるでしょうが、全力で耐えて、支え合い、乗り越えて強くなっていきましょう。そのためには健康管理が大切です。経営者では子どもですが、私たちはもうおっさんです。最近、あなたのお腹が出てきていることが気になっています。くれぐれもご自愛ください。

私が ハシダ技研工業を選んだ理由

「順風満帆なキャリアの裏で、いつしか『自分本位』になっていたのかも知れない」。M.Yさんの転職は、仕事のスキルだけでなく自分自身を深く見つめ直す転機となりました。上司や仲間の人間力に触れ、人のミス責めるのではなく「背中語れる先輩」でありたいと願うようになった今、仕事に感じる本当の喜びとは。ハシダ技研工業で得られる、技術だけではなく「人としての成長」の物語です。

貝塚工場
M.Yさん

Profile
前職では約12年間、機械切削の業務に従事。高校の同級生である吉岡社長との再会を機にハシダ技研工業へ。現在は貝塚工場に勤務。



転職のきっかけと入社決め手

POINT 同級生は社長。運命の再会と新たな挑戦

きっかけは、高校の同級生である吉岡社長との再会。学生時代から吉岡社長の「運の良さ」や前向きな姿勢に魅力を感じていました。6年前、「社長になるから手伝いにこうへんか」と誘われ、驚きつつも興味が湧き二つ返事で快諾。前職に不満はなかったものの、当時は「自分ならどこへ行っても通用するだろう」という自信から天狗になっていた面もあり……。『自分を試したい』という挑戦への気持ちで、入社決め手となったのです。



入社後の実感

「ハードな実力主義」で折られた鼻と、チームで掴む達成感

入社当初に感じたのは、「他の会社よりハードだ」ということ。年功序列はなく、実力が優先される会社だとすぐにわかり、自信のあった鼻は折れましたが、「何くそ」という気持ちにもなりました。社長の背中を追いかけてほしい自分が奮い立たせたのです。また、工場をまたいだプロジェクトが多い点にハシダ技研工業らしさを感じます。各工場の得意分野を結集して仕事に取り組むため、他工場の仲間との会話は勉強になり、乗り越えた後の「お疲れさん」という一言が何より嬉しいものです。会社全体の一体感と達成感が大きなやりがいになっています。

成長を後押しする環境

「ハシダ塾」が教えてくれた、自分を見つめ直す大切さ

この会社に入り、自分自身を深く見つめ直す機会が増えたと感じています。特に「ハシダ塾」では、「相手が何を求めているか」を常に考えることの重要性を学びました。自分本位だった過去の働き方を反省し、相手の求めることに応えられたときの喜びは、今では仕事の原動力です。上司からも「求められて動かないと良い立ち位置にはなれない」とアドバイスを受け、自分のことばかりだった視点が大きく変わりました。

未来の仲間へのメッセージ

背中語れる先輩がいる、温かい場所で共に成長を

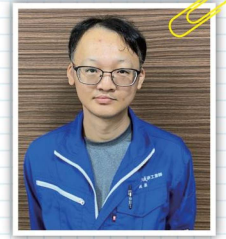
3年前にプライベートで落ち込み、遅刻が続いた時期がありました。そのとき、上司は何も言わずに受け入れ、私が謝りやすいよう現場に根回しまでしてくれたのです。その人間力に触れ、人のミス責めるだけが指導ではないと学びました。自分も「背中語れる先輩」を目指したいと思います。ここは温かい人ばかり。未来の仲間ともこの素晴らしい環境で共に学び、成長していければと願います。



ハシダ塾 VOICE

CHECK
「視野を広げて掴んだ」「チームを動かす力」

日田工場
チームリーダー
M.Kさん



かつては個人の改善活動に注力していたというM.Kさん。しかしハシダ塾をきっかけに、チーム全体を巻き込み、数字を根拠にメンバーを導くリーダーへと成長を遂げました。今回は視野を広げる挑戦がもたらした、大きな変化の軌跡を追います！

「ハシダ塾」受講のきっかけ

停滞していた自分自身を前進させるために参加を決意

受講前の私は、自分の部署の効率化や改善といった、限られた範囲の課題ばかりを考えていました。今思えば、とても視野が狭かったと感じています。「ハシダ塾」に参加したきっかけは、日田工場の K マネージャーから「受講してみないか」と声をかけていただいたこと。大変だろうとは思いつつも、会社に認めてもらえたような嬉しさがあったことを覚えています。また自分の考えがマンネリ化していた時期だったこともあり、新しい知識を得てレベルアップしたいという期待を胸に挑戦を決めました。

講義中、特に印象に残っていること

仕事へのアンテナを広げた「ネタ探し」

特に印象深かったのは、毎週初めに行う「今週のエピソードトーク」です。話すネタを探すが、仕事へのアンテナを高くするきっかけとなりました。自分の部署だけでなく他の部署の仕事にも興味が湧き、気づけば工場全体を見渡す広い視野が身についていたのです。

チームの重要性を知るきっかけとなった学び

「1人で頑張っても成果の大きさは知れている。人を巻き込み、動かすことで仕事は大きくできる」という学びも、印象的だったことの1つ。ずっと個人として向き合ってきた私にとって、自分がこれまでやってきたことの小ささを痛感させられた瞬間でした。この教えが、チームで仕事をする事の重要性に気づかせてくれたように思います。



POINT 業務のなかで活かされている学び

① 数字を根拠に語るリーダーシップ

卒業後に最も変わったのは、売り上げや固定費といった数字を意識するようになったことです。以前はぼんやりとした感覚でしかありませんでしたが、今は数字をもとに状況を分析する癖ができました。チームリーダーとして部下に指示を出す際も、数字という明確な根拠をもって説明できるようになったことは、大きな成長だと感じています。

② コミュニケーションでチームを動かす

人を巻き込む大切さを学んだことで、コミュニケーションの重要性も再認識しました。もともと得意なほうではありませんが、部下に気持ち良く動いてもらうためには、雑談なども必要だと感じています。これもリーダーとして必要なスキルだと考え、今後も日々勉強中です。

「ハシダ塾」を受講する方へのアドバイス

不安を乗り越えれば、必ず成長が待っている

私も最初は不安でしたが、卒業した今、自分自身の成長をはっきりと実感できています。皆さんもチャンスがあるなら、1日でも早く受講してみてください。受講中は大変なことも多いと思いますが、真面目に取り組めば必ず成長できますし、それが仕事への自信にもつながるはずです。

RECOMMEND